

詩篇 第91篇 1～6節（御翼の下に）

いと高き方の隠れ場に住む者は、
全能者の陰に宿る。
私は主に申し上げよう。
「わが避け所、わがとりで、
私の信頼するわが神」と。
主は狩人のわなから、
恐ろしい疫病から、あなたを救い出されるからである。

主は、ご自分の羽で、あなたをおおわれる。
あなたは、その翼の下に身を避ける。
主の真実は、大盾であり、とりでである。
あなたは夜の恐怖も恐れず、
昼に飛び来る矢も恐れない。
また、暗やみに歩き回る疫病も、
真昼に荒らす滅びをも。

初めに、時空を超え、揺るぎない場にある民の姿が歌われる。そして、「私は」となりパーソナルな歌へと発展し、魂からの言葉を主に告白する。歌が個人だけでお終いとはならない。「私」から「あなた」への歌となる。すべての民は全能者の真実を歌うことができる。そのお方を御名を変え呼ぶ、「私」と「あなた」が共に歌う。